

定信紀行

第二話 江戸築地浴恩園のこと

寄稿 市文化財保護審議会委員 佐川 庄司

佐川 庄司

数え30歳で老中首座、翌年に將軍補佐役に就任した松平定信は「寛政の改革」を断行し、農村の復興、財政再建、福祉・教育・対外政策などにおいて一定の成果を上げたが、わずか6年でその職を辞している。辞任の背景には將軍家斉との確執など、さまざまな説がある。しかし、定信の改革路線は基本的にその後も継承・維持された。

江戸における定信の本拠は八丁堀にあった白河藩上屋敷であったが、老中辞任後に本拠としたのは、築地の下屋敷である「浴恩園」であった。定信は老中退任の1年前に一橋家からその地を拝領していた。江戸湾を望む地で、旧東京中央卸売市場（旧築地市場）敷地がその跡地に相当する。海水を引き入れた2つの池を有する、敷地約1万7千坪の池泉回遊式庭園を定信自らプロデュースし、白河藩の下屋敷とした。定信の居館である「千秋館」前に広がる桜に囲まれた「春風の池」、江戸湾寄りの「秋風の池」周囲に

は紅葉が植栽されていた。菊・蓮・梅・桃などさまざまな植物園もあった。2つの池の周りには和歌と漢詩が詠み込まれた51の名所も設けられていた。定信は月に1、2度白河藩家中の人達などを招き、園内散策ツアーを催していたとされる。

問 観光課 ☎ 5526

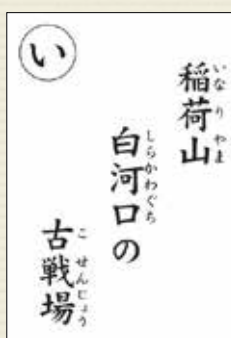


▲浴恩園全図（国立国会図書館蔵）

白河かるた 札でつながる今・昔

二枚目

「稲荷山」



九番町の稲荷山は、戊辰戦争における白河口の戦いの激戦地であり、この戦闘で両軍合わせて1000人を超える方が死傷しました。白河の城下町は阿武隈川と谷津田川に挟まれており、河岸段丘の段丘面に造られたまちです。そのため、両河川の間は平坦で開けた地形となっており、稲荷山は旧奥州街道に面し、白坂方面から北進してくる新政府軍を見張ることができ、戦略上重要な拠点でした。1868年5月1日明け方、白坂より進軍してきた新政府軍は、小丸山を攻略し、稲荷山の奥羽越列藩同盟軍と対峙します。この時、新政府軍は偽隊旗を掲げて

陽動し、同盟軍を稲荷山方面に引き付けました。同盟軍後背の防御が手薄になった際に、新政府軍の右翼隊は雷神山を、左翼隊は立石山を攻略し、三方面から稲荷山を包囲・攻撃しました。城下町には丘陵や川といった要害が少ないこともあり、新政府軍の展開は速く、その日の正午過ぎには小峰城を占領しました。白河以北から来る敵への防衛として、1629年に白河藩主丹羽長重により大規模改修が施された小峰城は、239年後に南から来た新政府軍によって陥落したのです。

問 まちづくり推進課 ☎ 5533

お知らせ

ラウンジ

りぷらん

子育て情報

保健情報

くらしの情報館

定信紀行

白河かるた

休日当番医・無料相談ほか

市長の手控え帖